

# パンタナール通信

南北米福地開発協会 会報 2004年3月1日 第6号



## 世界最大の湿地帯 パンタナールへ 生態系の宝庫で神秘を体験し、心の故郷を発見しよう！！



小船でレダ近郊を探索



記念植樹の前で（森川家）

### 第3回パンタナール エコツアー参加募集

日程 4月24日(土) - 5月8日(土)

参加費用 37万円

申込み場所 南北米福地開発協会事務局 〒150-0001

東京都渋谷区神南6-19-14 神宮前ハッピービル10F

電話 03-5774-0544

FAX 03-3407-0145

申込み期限 2004年3月31日 柴沼まで

都会に住む私達には原初のままの自然に触れる機会がありません。パンタナールへの旅で私達が過去二回の参加者が経験しました。都会で知らずにすさんでしまった人間の心がパンタナールの自然にふれ、癒され、生きた泉のように力が湧き上がつてくるのを感じたと感動していました。今回は過去二回のよう南北米福地開発協会開発の基地レダを訪問し、そこで植樹活動、自然探索、種類豊かな鳥の鳴りを聞き、そして、放牧している馬に乗り、雄大なパンタナールの川の流れの中で船釣り、特に釣り師の夢、黄金の魚ドラドにも挑戦できます。

# 世界一の瀑布、イグアスの滝訪問



エコツーリズムは、自然環境を守り、そこに住む人々の生活の向上に貢献できる「責任ある旅の形態」であると一般的に言われている。今まで南北米福地開発協会で行つてきたエコツアーでは、南米、巴拉グアイを中心に、湿地帯パンタナールへのツアーでした。パンタナールはエコツーリズムにとつて多くの魅力ある可能性を持っている。水系の季節変動、中でも洪水と渇水時期で、その様相が大きく変化するため、訪れる人は一年を通じ、様々なに変化する自然の魅力を味わう事が出来る。野生生物の生息密度も大きい。魚の種類は多く、量も豊かな事は、スポーツフィッシングを愉しむ人にとって魅力的な所となっている。また、氾濫原での原住民の居住スタイルはパンタナネイロ文化と称され、構造物は大変興味深い。過去、二回のツアーではレダ近くの現地のインディヒナの村、ボケロン、エスペランサを訪問、文化交流も成し、大きな成果を上げてきた。特にインディヒナの子供達の笑顔、日の輝きには一様に参加者は感動させられた。